

『葛西鳥類目録』の発行に助成しました ……野鳥の保護研究・4年目のご報告

2011年に発足しました、会独自の「野鳥の保護研究基金」には多数の方からご寄付をいただき、ありがとうございます。今後は基金の活用が重要となっていますが、その第1号といえるのが、この8月に発行された『葛西鳥類目録-葛西臨海公園・葛西海浜公園の鳥1994年～2013年』〔図・A4判・20ページ〕。基金からの助成で出版されました。(詳しくは9月号裏表紙をごらんください)

この冊子は、江戸川区内の区立図書館と東京都・千葉県・神奈川県
の東京湾沿岸の区・市立の図書館、および国立国会図書館、東京都
中央図書館、日本野鳥の会、日本鳥類保護連盟、山階鳥類研究所、それ
に葛西に関係する団体・役所などに寄贈されました。また、今後の保護・
研究活動に有効に活用される予定です。なお必要とする方には、1冊

図 基金の助成で当会から出版された冊子
ですので、ご支援・ご協力をお願いいたします。

300円で頒布しています。今後も基金は有意義な活動を行っていきま
すので、ご支援・ご協力をお願いいたします。 日本野鳥の会東京・野鳥の保護研究基金委員会

【ご寄付者名簿・6】

2013年11月1日～2014年10月31日〔敬称略〕

三浦黎子、飯田陳也、石亀 明、石川静子、糸嶺篤人、大塚 豊、落合はるな、恩田康子 川端一彦、
川内桂子、川内 博、田久保晴孝、富山 稔、中川洋一、西村真一〔以上15名〕

研究部レポート

消えゆくツバメをまもろう……

JR中央線 各駅停車 ツバメの巣はどこに 2014年調査結果 その2



©H.Kawachi

JR中央線・東京駅～高尾駅までの32駅とその周辺(半径300m)の、ツバメの現状を調べたこの調査で、日野市の日野・豊田の2駅には、全発見数74か所の半分の37か所が集中していました。今回はこの2駅の状況を報告していただきます。

ツバメの“最後の砦”日野駅・豊田駅の状況

金子凱彦

JR中央線の日野駅、豊田駅周辺になぜツバメが多いのだろうか。ツバメは飛ぶ虫だけを餌とする、水と緑の環境を好む野鳥。日野駅は多摩川から600mほどと水辺に近く、段丘涯の雑木林が駅まで迫っています。豊田駅も多摩川の支流浅川まで直線で700m、駅近くには緑地保全地域の段丘崖の緑地が広がっています。さらにかつての農業用水路が今でも市内を網の目のように流れており、その距離は118kmにもおよび、これらの環境が餌の飛翔昆虫の供給源になっていると思われます。

駅周辺は隣の立川駅や八王子駅に比べ、高層ビルもなく、ほどほどの規模の都市環境です。ツバメが好む低層の建物が多く、日野駅では甲州街道沿いに巣が点在していますが、駅から東へ500mを過ぎると巣はなくなります〔図1〕。同駅北側は区画整理が進行中ですが、新しく建ったビルにもツバメが営巣を始めています。ビルのオーナーも巣を落とすことなくツバメを受け入れているようです。

豊田駅はほぼ 300 m の範囲に巣はありますが、それ以上駅から離れるとなくなります〔図2〕。巣は駅周辺に集中していて、同駅南側の古い昔ながらの商店街には6つの巣がありましたが、大規模な駅前の再開発が進行していて、今の営巣地は将来ほとんどなくなってしまうと思われます。本年の調査で日野駅 23 巣、豊田駅 14 巣と、中央線沿線でツバメが営巣した個所の半数が日野市内の 2 駅と突出していましたが、今後の両駅前の開発でどのように変わるか心配です。

日野市内はかつて「多摩の米蔵」といわれ、水田が一面に広がっていました。稲の害虫を食べるツバ

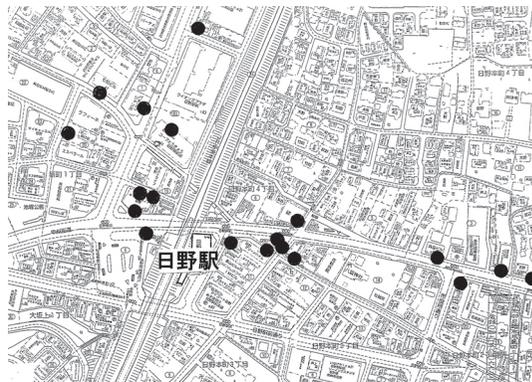


図1 JR日野駅一帯のツバメの営巣分布(●印が営巣場所)

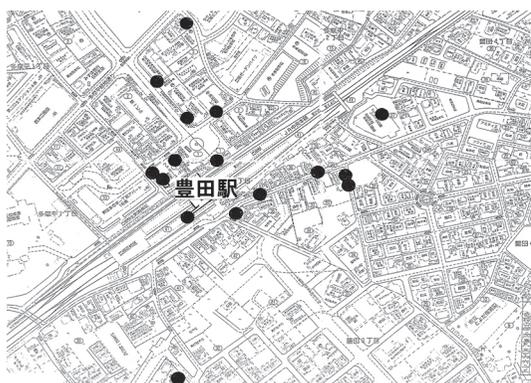


図2 JR豊田駅一帯のツバメの営巣分布(●印が営巣場所)

メは昔から大事にされてきたようで、「恩返しをしたつばめ」という昔話が日野には残っています。このよき伝統は現在も引き継がれ、駅前の菓子店では店頭の柱でツバメが子育てを始めると、下に置いてある商品陳列用の台を移動し、ヒナが巣立つとまた元に戻すという気遣いが毎年繰り返されています。同じビルの駐輪場にはツバメの巣が3つ残っていますが、壁の塗装の際には巣を落とさず毎回作業をしています。駅周辺ではツバメはあたたかく迎え入れられていて、今年営巣したツバメの巣は、2、3の巣を除き北風が吹く今でも残っています。来春、ツバメが帰って来るのを町の人たちは待っているのです。

《冬の調査・1》ユリカモメ・オオバンを調べよう・その分布と数

ユリカモメは東京都のシンボル「都鳥」として親しまれていますが、1980～90年代に比べ数が減り、飛来地も少なくなっているようです。一方、オオバンは、このところ、各地の水辺に増えているようですが、その状況はよくわかっていません。越冬期の実態を把握するため、下記のような調査を12月～1月にかけて実施します。ぜひご参加ください。

・・・・・・・・くわしくは次号で

《冬の調査・2》オオタカ・ノスリの東京 23 区内生息を調べよう・参加者募集

明治神宮をはじめ、皇居・自然教育園・小石川植物園など、23区の緑島(緑地)で、オオタカやノスリの姿を見ることがよくあります。いったい何羽23区内に生息しているのだろうと興味あるところです。この1月のある日曜日・同じ時間帯で一斉に調べてみませんか。そのためには、たくさんの方の参加が必要です。参加の必要条件是、飛んでいるオオタカ・ノスリを識別できる方。下記の要領で応募してください。

【調査・応募要領】

1. 調査予定日時：2015年1月4日(日)または11日(日)・午前10～12時
2. 調査場所：調査者の都合のよい場所(最終的に調整します)
3. 調査方法：オオタカ・ノスリなど猛禽類を識別し、その数と行動を記録する。
4. 応募方法：メール・Fax・手紙で、住所・氏名・電話番号を明記し、会事務所あてに
※応募連絡先は、本誌奥付をごらんください。